

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500204		
法人名	たきかわ介護福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム ともだちの家 ユニット I		
所在地	滝川市西町2丁目3番47号		
自己評価作成日	平成28年9月9日	評価結果市町村受理日	平成28年10月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0177500204-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0177500204-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いきいき百歳体操の会場としてホームを開放し、地域の方と交流できる機会の確保、風通しの良いホームを目指している。  
利用者とお互い様の気持ちを持ち、共に掃除などの作業をして、ホーム内の清潔を保持し、利用者のできることを探して出来ない事を支援している。  
一日の終わりを良い気分で終われるように笑顔と笑い声のあるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ともだちの家」は、JR滝川駅から徒歩圏内の静かな住宅地に立地している。近隣には散歩や花見を楽しむことができる大きな三世代交流公園があり自然環境にも恵まれている。平屋建ての2ユニットの事業所で、共用空間や居室は広々とした造りで清潔感のある屋内になっている。敷地内にある畑では、利用者と一緒に野菜の生育や収穫を楽しみながら季節を感じる事ができる。管理者は、職員と共に地域との関係性を大切にしながら開かれた事業所を目指して積極的に取り組んでいる。新たに「認知症カフェ」も開催して、更に地域住民との交流を深めている。毎朝理念を唱和することで、職員の理念に対する理解も優れている。管理者は、職員の資質向上に力を入れて定期的に勉強会を実施すると共に、学びの機会と捉えて自己評価にも全職員で取り組んでいる。また、日頃から職員と話をする機会を設けており、今年度は職員の提案を取り入れて「お食事レクリエーション」を毎月実施している。食材を活かしながら毎日献立を考えて利用者と一緒に準備や片づけをしたり、好きな時間帯でゆっくり入浴を楽しめるように配慮しながら家庭的な生活が継続できるように支援している。一人ひとりに親身に寄り添う管理者と職員の温かな姿勢は、利用者と家族の安心感につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りで理念を唱和し、実践へつなげられるようにしている。	開設後に全職員でセンター方式の5つの視点を基に運営理念を見直し、地域密着型サービスを意識した文言を含む5項目の運営理念を作成している。職員は理念を十分理解しており、全職員で共有しながら日々の業務で実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加するほか、施設を体操や認知症カフェの会場として開放し、交流する事を意識している。	地域の運動会や敬老会に参加したり、「ともだちの家祭り」に地域住民を招待している。フラダンスや蓄音機での音楽鑑賞のボランティアが来訪している。今後は子ども達と交流する機会を増やせるように、小学校などへ働きかけたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れの他、認知症カフェを開催し、実際の現場を見ていただいたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議には利用者やご家族の参加出来るよう配慮している。	事業所報告の他、災害対策など年間テーマを設定して開催している。認知症家族の会の方から研修情報などを貰うこともある。家族の参加が少なくなっているので、今後は事前に家族の意見を聴き取りながら会議に活かしていきたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設を会場として開放したり、市主催の催しや研修会にも積極的に参加したりして、顔なじみとなるように努めている。	管理者は、書類提出などで市役所を訪問した時もグループホーム担当職員と話をするなど、普段から協力関係が築けるように取り組んでいる。地域包括支援センターから情報を得て、キャラバンメイトの協力や認知症カフェを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーを取り付け、拘束とならない様配慮している。拘束についても会議で話題に出したり、必要時にはご家族と話し合いしている。	禁止の対象となる具体的な行為の10項目を記載した、独自のマニュアルを作成している。外部研修後に報告研修を行っているが、事例検討も少ないため禁止行為について職員が十分理解しているとは言えない。利用者が外出しようとした時は、安全面に配慮しながら自由な出入りを支援している。	年1回は、「禁止の対象となる具体的な行為」についての内部研修を行い、全職員で更に理解を深めるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修会に参加し、反映できるようにして、帽子に努めている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、反映できるように、勉強会の議題として学ぶ機会の確保に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学していただいて入居時によく説明し、納得いただいてから契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の何気ない会話からも意見をくみ取れるよう努力し、運営に反映できるように努めている。	家族の来訪時に普段の様子を話しながら、意見や要望が言いやすい雰囲気づくりに配慮している。家族の要望や意見は、内容に応じて介護記録やスタッフノートに記入している。毎月、写真入りの個別便りを家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を設け、意見を聞く努力をして、反映させている。	管理者は、普段から各職員と話をし、会議などで発言が苦手な職員の意見や提案も聞き取るように配慮している。勤務形態に応じて毎日職員間で役割を分担して、職員中心に業務に取り組めるように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休みなどのシフト希望は可能な限り調整している。休憩室や時間も確保し、働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルなどを考慮し、研修を受ける機会の確保や働きながら指導していく内容にも考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学の機会の確保やケアカフェ開催のお知らせ、他施設への行事の参加などを行ない、交流の機会やサービスの質の向上を目指している。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談を行い、皆で情報共有し、関係づくりに努めている。不安な気持ちを察したり、限りなく安心して過ごしていけるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の様子と照らし合わせて家族の考えを引き出していけるように努力し、入所前面談でもよく話を伺い、良い関係を気づける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談をもとに進めるが、実際の様子と照らし合わせて、家族と都度相談し、柔軟に対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと一緒に様々な作業をする事で、一方的にならず、支え合う関係となれる様に配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り近況報告をし、家族の声を聴き、信頼関係が築ける様努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が来られたり、なじみの場所へ出かけられたりとなるべく関係が途切れない様に、努力はしている。	近所に住んでいた方や趣味の仲間などが来訪する利用者もいる。親戚や友人と電話で話をすることもある。職員と一緒に、以前利用していた施設で開催している認知症カフェに出かけたり、絵の好きな利用者などが市の文化祭を見学している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の様子を見て早めに対応しトラブル回避しながら利用者同士が良い関係を気づける様に努めている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後はなかなか会う機会がないのも現実だが、近所などで会った時は挨拶を交わし、経過を見守っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を把握できるようにカンファレンスを活用し、本人本位となるよう、出来る限り努めている。	現在は殆どの利用者が会話から思いや意向を把握することができる。遠慮している時は、普段の会話や仕草などを見ながら職員間で情報交換をして、本人の思いに沿えるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の資料からの把握と、家族との会話の中でも知ることができる様努めている。必要に応じて担当していたケアマネさんからも情報収集する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を個別に記録し、現状の把握や、アセスメントに役立てている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、スタッフの意見、本人の意向、家族の意向などを組み入れて介護計画を作成している。	全職員で記入したアセスメントシートと介護記録を基に計画作成担当者を中心に評価を行い、家族と本人の意向を聴き取り3ヵ月毎に介護計画を見直している。介護記録の書式変更後、介護計画に沿った記録が少なくなっている。	介護計画の見直しに活かせるように、介護記録にサービス内容の番号などを入れながら変化や課題を記録するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、業務日誌とそれぞれの利点を生かしながら情報共有や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせて、柔軟に対応できるように様々な機関と関係づくりに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域などの回収資源への提供、地域行事への参加、ホームを会場として開放したりと、地域と協働できるよう心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所しても引き続きかかりつけ医に受診できる様に日々の様子を記録したノートを持って行っていただいたり、直接医療機関へ問い合わせする事もあり、適切な医療を受けられる様支援している。	殆どの利用者が以前からのかかりつけ医を継続しており、家族や「受診支援の会」の方が受診に同行している。「受診ノート」を活用して、主治医と情報交換している。今後は、バイタル表に記入している受診記録を時系列に整理したいと考えている。	

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、週一回の訪問と24時間の電話相談の機会を確保している。訪問看護とのやりとりの専用紙を活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに介護添書を提出している。入院中は家族や病院関係者と情報交換できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には終末期の在り方など、説明している。入所中の生活の中で徐々に衰えてきている部分もあり、家族とは都度話し合っている。	利用開始時に、「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って事業所として可能な対応を説明して看取り対応ができない旨を伝えている。体調の変化に応じて家族や主治医と方針を話し合い、希望に応じて転移が可能な施設情報を提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、職員は消防署にて救命講習の訓練を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、うち1回は町内役員などにも参加していただいている。	年2回、消防署の協力の下に昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。非常食の他、ストーブやポータブルトイレなどの備品も整備している。今後は、具体的な状況に応じた地震時の対応などについて職員間で更に検討したいと考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け時は個々に合わせて行うようにし、トイレなど声掛けには大きな声にならないように配慮している。	基本的に名字に「さん」づけで声かけし、トイレ誘導の時も他の人に気づかれないように利用者の尊厳や人格を大切にしている。書類の保管も適正に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表したり、自己決定できるように日頃から声掛けの工夫や関係性を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にするためにも与える介護ではなく待つ姿勢を持つよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいセンスを尊重しつつ、支援が必要な方には季節感を大切にしながら対応している。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いがある場合には取り除いたり、少量にしたりと出来る範囲で工夫している。献立を書いていたいたり、テーブル拭き、食器片付など、出来る範囲で利用者と一緒にやっている。	食材は業者に発注しているが、畑で収穫した野菜なども利用し、調理担当者が利用者の希望を聞きながら食材を見て毎日献立を立てている。今年から毎月「お食事レクリエーション」を始め、利用者から好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量のチェックをし、水分量の制限がある方にも調整して、状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い、必要に合わせて支援している。口腔状態に異常がある場合には医療へとつなげられる様配慮している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用しながら個々のパターンを掴むようにし、声掛け、支援している。	全員の排泄をチェックシートに記録し、必要な方には声かけ誘導している。声かけにより、リハビリパンツからパットだけの使用になるなど、改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルト提供し、ごぼうなどの食物繊維も献立に取り入れるように工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前と午後とおおまかに時間を分け、気分に合わせて声掛けしている。拒否があった場合には翌日に再度声掛けするなどして、柔軟に対応している。	毎日入浴が可能で、午前2人午後1人、基本3日に1度入れるように支援している。湯船は午前、午後で入れ替えており、清潔である。入浴拒否をする方は日にちを変えたり、介助者を代えて声かけして入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠に影響ない範囲で自由に休息していただいている。眠剤服用の方には日中に眠気が残らないかなど、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬シートを活用し、薬の理解に努めている。服薬支援にもチェックシート用いて誤薬のないように配慮し、体調変化あれば観察し早めの対応心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵を描く、ソロバン、外出、新聞など、個々に合わせた趣味や嗜好を楽しめるように工夫し、支援している。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者、周囲の状況を考慮し、行ける範囲で散歩や他施設での認知症カフェ、お祭りなど支援している。	年間の外出行事の他、夏場は近所を散歩したり、近くの公園に出かけている。カーポートにベンチを置いて、焼き肉パーティなども行っている。また、他施設での認知症カフェや町内会の運動会にも参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを避ける意味で小遣いは事務所で預かっているが、必要時には使える様になっている。どうしても手持ちしたい場合には家族と相談し、柔軟に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、いつでも使用できるように配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ボランティアの協力により、季節ごとに絵を変えている。ソファやベンチを配置して思い思いに過ごせるよう配慮している。日中も電気をつけて明るさへの配慮、窓を開けたりクーラー使用し、気温にも気を付けている。	すべてが広くゆったりとした造りになっており、廊下や居間にはベンチやソファが置かれ一人になれる空間が設けられている。廊下や居間にはボランティアの絵や利用者の塗り絵などが飾られており、和やかな雰囲気を醸し出している。リビングは、認知症カフェや百歳体操の会場として地域交流の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチを多めに設置し、思い思いに過ごせるよう配慮している。利用者同士で部屋を訪問し合ったりできる雰囲気づくり。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら慣れたものや好み、家具の配置などを都度対応し、居心地良く過ごせるよう配慮。	広い居室にはカーテンと大きなクローゼットが備えられ、テレビ、ベッド、ソファ、仏壇など、それぞれ好みの家具を持ち込んで家庭的な居心地のよい空間となっている。壁には、写真や自分の作った作品などが飾られていて和やかな雰囲気を醸し出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境を邪魔しないよう工夫し、トイレの表示など分かりやすい様工夫している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500204		
法人名	たきかわ介護福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム ともだちの家 ユニットⅡ		
所在地	滝川市西町2丁目3番47号		
自己評価作成日	平成28年9月9日	評価結果市町村受理日	平成28年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いきいき百歳体操の会場としてホームを開放し、地域の方と交流できる機会の確保、風通しの良いホームを目指している。  
利用者とお互い様の気持ちを持ち、共に掃除などの作業をして、ホーム内の清潔を保持し、利用者のできることを探して出来ない事を支援している。  
一日の終わりを良い気分で終われるように笑顔と笑い声のあるホームを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0177500204-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0177500204-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年9月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅰ.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、朝の申し送り時に唱和し職員で共有できる様心掛け、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内外の行事にはできるかぎり参加し、いきいき百歳体操の会場として定期的に地域の方が訪れる機会もあり、交流は図れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れも行っている。認知症カフェを月1回開催し、認知症への理解が深まる様努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催しており、会議だけでなく、避難訓練やおまつりへも参加して頂き、ありのままを見て頂ける様に配慮している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の主催の事業所会議や研修会には参加し、認知症カフェ開催し、取り組みを見ていただき、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含め、身体拘束に対する意識を持ち、利用者の生活を把握し、身体拘束しないケアに取り組む努力をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修会に参加し、スタッフ会議などで学びを反映する様にしている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加し、内部研修に反映している。機会があれば、活用できる心構えはある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には事前に見学していただき、十分な説明を行い、理解や納得を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場を設けているが、家族の参加が難しい事が多いが面会の際などに信頼関係を築くように努力している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議やスタッフ会議の場を設けており、意見を聞く機会を確保している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフトや有給休暇希望など、働きやすいように環境整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践を通して指導する様にし、個別にアドバイスやトレーニングを行う。力量などを把握し、外部研修への参加も確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や会議の他、他グループホームのお祭りに参加したり、参加していただいたりして、相互訪問の機会を確保している。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行いフェースシートを作成し、サービス利用開始前には情報を共有するようにしている。入居間もない頃は見守りをよくして、信頼関係が築ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の際には家族の不安な事にもよく耳を傾け、関係が築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族ともよく相談し、何が必要なかを把握し、福祉用具を含め、柔軟な対応ができる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と楽しく過ごすことで笑い合い、信頼関係を築くようにし、一人の人間として接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の状況を伝え、家族の想いを聴くようにして信頼関係を築き、情報共有し、協力体制をとるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの生活習慣を出来る限り大切にしている。状況により難しい場合もあるが、家族との関係を大切に途切れない様に支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の状況を把握し、孤立せずに支え合えるような関係ができるように、レクリエーションや洗濯物干しなどの作業を共同でできるように配慮している。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族に会ったら挨拶し、状況を聴いたりして、関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやカンファレンスの活用、日々の何気ない会話から意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のフェースシートの活用、家族からの情報などで把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間を通して記録し、一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員みんなでアセスメントをし、それをもとにカンファレンスを実施している。家族の意向も把握し、現状に即した介護計画となる様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って日々の様子や実践を個別に記録し、モニタリングをおこない、情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望により、出張理容や付添い介助などのサービスの活用など、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や市の行事など地域資源を活用し、楽しむ事ができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を大切に引き続きかかりつけ医に通院できるよう支援している。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し週1回の訪問のほか、24時間の電話相談の機会を確保している。毎日の身体状況の記録を渡し情報共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には介護添書、看護添書と速やかに情報交換をしている。早期に退院できるよう、病院関係者とも連絡を取ることし、関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に説明している。事業所でもできるだけ配慮をし、家族とは信頼関係を築く様に努め、都度話し合いしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、応急手当などの訓練を受け、内部研修に反映させるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間想定、夜間想定での避難訓練を実施している。災害時についての避難場所などのマニュアルも目に付く場所に掲示している。内部研修でもテーマで扱うこともある。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声掛けに気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合った選択肢を出したり、日々の会話や行動からも思いを組む努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、出来る限り守れる様努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援が必要な方には、季節感や好みを大切にしながら支援している。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来る事を把握し、盛り付け、テーブル拭き、調理など、無理のない範囲で力量を発揮していただけるように配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、食事量、水分量を把握している。栄養バランスに配慮し個人個人の食べる量にも気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、力量に合わせてサポートし口腔内の観察と清潔保持に努めている。必要に応じて保健センターの歯科衛生士に訪問指導をってもらう事もある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用しパターンを把握する様にして支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳、朝食時のヨーグルト提供ほか、食材の工夫を心掛けている。個人の状態に応じてかかりつけ医と相談もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2~3日のタイミングをみて入浴声掛けしている。午前と午後との時間帯に分け、希望に添えるように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のパターンを把握し、必要に応じて日中でも休息できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を個別ファイルに保管し、いつでも目を通す事ができるようにしている。変更あれば職員で共有できるように申し送りしたりチェックシート活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	脳トレ、カルタ、塗り絵、カラオケなど一人ひとりの楽しみ方を把握する事で気分転換できる様に努めている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	様々な状況の中ですべての希望とはいかないが無理のない範囲で行事、ドライブ、認知症カフェなど時間を作り出かけられる様に努力している。一人でも希望に添える様に心掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持していないが、買い物支援し、預り金で職員付添のもと使える様にしている。お金の拘らず、貴金属の貴重品をできる方には自己管理していただき、心の満足感を大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話は設置されている。携帯電話を持っている方もおり、電話希望あれば対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ボランティアの協力により、壁に季節ごとに絵を張り替えている。不快や混乱を招くような刺激には配慮し居心地良く過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチを多く設置し、それぞれに過ごして頂ける様に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物やなじみのある物を持参していただける様家族と相談している。仏壇も設置できる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境を整えている。畑もあり、収穫を楽しんだり、昔のなじみのある事へ取り組めるように工夫している。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ともだちの家

作成日：平成 28年 10月 13日

市町村受理日：平成 28年 10月 13日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	前回の外部評価にて、日常の介護記録を記入する様式のアドバイスがあり様式を変更したが、日常の記録とケアプランが連動されていないとの事で、記入の仕方の検討が必要。	介護記録の様式はそのままにして、記入の仕方を検討し変更する事により、ケアプランとの連動を目指していく。	ユニット会議やスタッフ会議を利用し記入方法を検討してケアプランと連動できるように変更していく。	平成28年 12月末迄
2	6	現在、身体拘束については職員が研修受講後に研修報告を兼ねての勉強会だったので、「禁止の対象となる具体的な行為」までは細かく学習する機会はなかったので、理解を深める事ができていなかった。	「禁止の対象となる具体的な行為」を職員全員に周知し、実際の行動などを振り返りながら身体拘束についての理解を深めていきたい。	スタッフ会議での勉強会に組み込み、職員全員が理解を深められる様に機会を設けていきたい。	平成29年 9月迄
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。